

1. 教育の責任

対象者に向き合い、質の高いケアを実践できる看護専門職者として地域社会、国際社会に貢献する人材育成の基盤となる職責を担っています。

2. 教育の理念

固有のコードを持つ様々な人を看護の対象者として全人的に理解するために必要な知識を教授する。

知識と根拠に基づく技術の教授に加え、最適なケアを実践できる看護専門職者として必要な態度も含め育成する。

3. 教育の方法

【4年間を通じた教育】

1～2年次「基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ」「基礎看護方法論Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅰ～Ⅲ」「看護過程」、4年次「統合実習」を担当し、4年間を通じて看護基礎技術からアセスメント、看護過程の統合までの学習が段階的に積み上がるように学習を構成しています。

看護技術に関しては、初年次は小人数グループ単位の演習を基軸に、看護実践に不可欠な基本的な援助技術の修得と、対象者の尊厳を踏まえた態度育成を重視しています。「基礎看護技術Ⅰ」では看護技術の根拠の理解を徹底し、学生が自ら考え、演習で実践する機会を多く設けています。後続する「基礎看護技術Ⅱ～Ⅳ」では基礎的な技術を応用し、対象者の状況に応じた最適なケア方法の選択と確実な実施、問題解決能力の育成につなげています。学習内容の理解と学生自らの学びを整理・深化できるよう、授業前には解剖生理学の復習、援助手順の確認、根拠と留意点を整理するための動画や課題を提示し、授業後は振り返りや演習記録の提出を課しています。また、「基礎看護方法論Ⅰ」演習指導、「看護過程」におけるアセスメントの指導も領域教員全員で担当し、机上学習と「基礎看護学実習Ⅰ～Ⅲ」での体験を融合させ、患者理解と必要なケアの実践について学修を深めることができるよう支援しています。

2年間におよぶ基礎看護学領域での基礎的な学びを終え、各専門領域での実習を経た後に履修する「統合実習」では、これまでの学修の集大成として、チームの一員としての役割を果たしながら、十分な専門知識をもとにした対象者理解と熟練されたケアを提供できるように教授しています。

このほか、4年次「看護研究Ⅱ」では4～5名の学生をゼミで担当し、個々が関心を寄せるテーマに対して研究の視点でアプローチして探求していくことにより、看護の質向上や自身の成長にもつながる達成感を共有できるよう、教員自身も学生と共に学ぶ気持ちを大切にしながら進めています。

【講義・演習を通じた教材開発】

講義・演習ではデジタルテキストを中心に、複数の参考文献や資料を整理・統合した資料を配布し、学生が学習内容を俯瞰しやすい工夫しています。また、演習における基本技術の定着を図るため、事前学習用の動画教材を制作し、学生がケア場面を具体的にイメージしながら学べる環境づくりに努めています。また、本学独自の学習支援システムである el-Campus のディスカッション機能を活用することにより、他者の考えを知り、意見交換することで学習意欲を向上させる機会も作っています。

4. 教育の成果

筆記・技術試験の得点率は75%前後を維持しており、学生は対象理解および看護実践のための基礎知識・技術を概ね修得できていると考えています。また、出席率の高さ、授業アンケート回答での肯定的な意見から、学習に対する関心や満足度も高いことが窺えます。実習では、個人差はあるものの学習への取り組みや態度面で一定の評価を得ています。

ゼミでは国家試験対策の個別指導も行っており、点数が伸び悩む学生に日々根気強く向き合うことで、模試結果の伸長を確認できています。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学部 名前：熊谷 桂子 作成日：2026年1月10日

5. 改善への努力と今後の目標

教授内容の多さも相まって、演習に費やす時間配分に苦慮することが時折ありました。学生の学習意欲を低下させないためにも、ゆとりをもったスケジュールで演習を再構築していきたいと考えています。また、技術練習への学生の熱量と時間捻出については個人差が大きいため、関心を持って自学自習に取り組めるような授業運営や、仕組みづくりを検討したいと考えています。

【添付資料】

- ①シラバス「基礎看護技術Ⅰ」「基礎看護技術Ⅱ」「基礎看護技術Ⅲ」「基礎看護技術Ⅳ」「基礎看護方法論Ⅰ」「看護過程」「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅲ」「統合看護学実習」「看護研究Ⅱ」
- ②学生アンケート